

記録文書は重要な資産である

— 中国福建省アーカイブズの見学報告 —

沖縄ポリテクカレッジ
(沖縄職業能力開発大学校)

林 文彬

今年（2007年）8月21、22日の2日間、中国アーカイブズ学会（中国档案学会）が福建省福州市で主催したアーカイブズおよびマイクロフィルム学術交流発表会に参加した。この学術交流発表会は台湾の中華アーカイブズ学会（中華档案学会）の協力を得て、中国側の学者と台湾側の学者から、それぞれ11通と8通の論文が発表された。そのうち、中国側は公文書館・図書館における社会サービス向上法と記録文書のデータベース化の論文が多く、発表者は国および各地方自治体の档案館（公文書館）で勤務されている研究館員が8割を占めていた。他方、台湾側は各公文書館に保管されているヒストリカル・ドキュメントによる近代歴史研究とデータ管理のシステム化の論文が半々で、発表者の多くは大学関係の方々である。この発表会で、私も「エレベータ会社におけるエレベータメンテナンスレポート管理システムの構築」というテーマで論文を発表した。従来紙媒体で行っていたエレベータ会社のエレベータ保守記録をデータベース化し、データ管理の自動化成果を報告した。

発表会の開催と併せて、中国アーカイブズ学会馮鶴旺理事長、霍力華副秘書長、福建省档案局（アーカイブズ）陳愛群副局長、広東省档案局張光燦副局長および中国アーカイブズ学会関係の方々には私たち中華アーカイブズ学会12名の参加者に福州市、泉州市および廈門市の各档案館（公文書館）の見学と福建省内の武夷山等名勝の観光をつきっきりで案内して下さった。

中国の国・地方行政システムは日本と少し違いがあり、縦割りで見ると、上から下までの順で国、省、市、（県・市）、（郷、鎮）となっている。福建省の福

州市を例にしてみると、福州市は福建省の直轄市であり、人口は600万人がいて、6県、2市と5区を管轄している。県の下に郷または鎮がある。各地方自治体のトップは書記と呼ばれる。

また、中国は昔から歴史記録を重視している国であり、全国すべての省、市、（県・市）および（郷、鎮）の地方自治体はそれぞれ「档案局（アーカイブズ）」という部局と「档案館（公文書館）」を持っている。もちろん、国の中央組織も「国家档案局」と「中央档案館（国立公文書館に相当）」を設立している。一般的に「档案局」と「档案館」の職員が両方兼任するのがほとんどで、例えば、福建省档案局の局長、副局長はそれぞれ、福建省档案館の館長、副館長も兼任している。現地の方々は、「ワンセットの職員で2つの看板を持つ」と説明してくれた（写真1を参照）。

現在、中国全国は総数3,500を超える档案館を持ち、保管資料の膨大さは世界一といわれる。また、教育施設には福建師範大学、中国人民大学等のいくつか



写真1 ワンセットの職員で2つの看板

の大学が档案学科を持ち、博士コースまでのアーカイブズ養成教育システムが整っていて、国に数多くの文書管理および研究・開発の人材を育成した。

われわれは福州市、泉州市および廈門市の各档案館を見学してから、その保管文書数の多さに驚いた。福州市档案館だけの建築面積は12,000平米で、10階建ての建物であり、館所蔵公文書は33万卷、重要資料は2.9万冊に達している。内容は地方自治体の部局や外郭団体等の公文書、写真等だけではなく、地方の社会・経済活動情報、族譜および歴史価値のある個人資料も日々収集に努めている。しかも、保管室に防災、防火および温・湿度コントロールシステム等のセキュリティ関連の設備もすべて完備されている。

近年来、各「档案局（または档案館）」の業務は保管している文書・資料をマルチメディアデータ化するとともに、福建省が持つ93箇所の「档案館」は一元化管理ができるデータベース管理システムの構築も進められている。さらに、民間企業の記録文書・データの保存・管理に関する業務に指導・助言することにも力を入れている。

福建省晋江市档案局黄項飛副局長の発表論文によると、今年（2007年）5月、世界貿易機関（WTO）の統計から、中国はこの9年間、世界各国から最も反ダンピング調査の措置を取られた国となっている。企業は反ダンピング調査に対応するために、過去に遡って社内の生産、販売、財務および人事等の詳細記録書類を提供しなければならない。実際にこのような反ダンピング調査は企業の記録文書管理の良否を検証する場ともいえる。これから、知識財産権保護が益々重視されるようになる現代社会に、記録文書管理は企業にとって欠かせない重要な業務の1つとなりつつある。省・市の档案局は今まで培ってきた記録文書の保存・管理ノウハウを企業に提供するのも重要な仕事と位置づけている。

記録文書管理はシステム工学、経営学、歴史学および図書館情報学等にまたがる分野である。今回、われわれは学術発表会の参加と福建省の各档案館の見学でこの共通の認識を得られた。また、この貴重な経験から、記録文書が国・地方行政、団体組織、企業および個人にかかわらず人類にとって重要な資

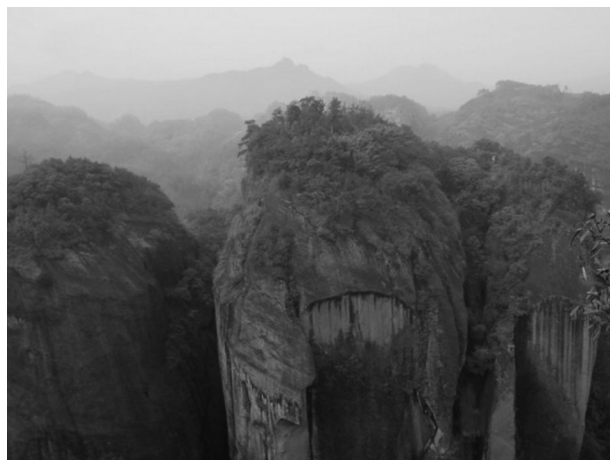


写真2 福建省武夷山風景

産であることも理解した。

余談ではあるが、1週間のスケジュール内で、私たちは唐の時代に建てられた福州市湧泉寺と泉州市開元寺を見学し、しかも、中国三大名山の1つ福建省武夷山も観光した。武夷山自然動植物公園の面積は70平方kmを超え、1999年に複合遺産（文化遺産と自然遺産の両方の価値を兼ね備えている遺産）として、世界遺産に登録された。公園は自然の豊かさから「鳥のパラダイス」、「蛇の王国」、「昆虫の世界」に喩えられている。公園全体は福建省最大の川である閩江上流の九曲溪沿いに起伏のある山々からなっていて、それぞれの山はすべて1つずつ奇妙な格好の石だけでできたものである（写真2を参照）。われわれは午前中、武夷山の主峰天游峰に登り、午後には竹筏で九曲溪の川下りをした。上と下から見た武夷山の景色はそれぞれ違い、景色は日本国内の風景とは一味が違う感じを受けた。

今回の充実した訪問・見学の旅は福建省档案局の配慮によるものであり、ここで、上述のつきっきりで案内して下さった方々、さらに各会場で熱烈に歓迎して下さった李和平国家档案局副局长・中央档案館副館長、陳少勇福建省常務委員・秘書長、丁志隆福建省档案局長、吳漢民泉州市副書記、洪静華泉州市档案局長、李運啓福州市档案局長、宋協会廈門市档案局長、王国材武夷山市档案局長および関係の方々に心から感謝いたします。